

令和 6 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

令和 6 年 7 月 1 8 日

学 長 殿

所 属 部 局 ・ 職 名 人間発達文化学類・教授

申 請 者 名
(学会参加助成の場合は参加者名)

森本 明

助成の区分 (該当するものに○)	学会参加助成 学術出版助成・学術論文掲載料等助成
事 業 名	15 th International Congress on Mathematics Education in Sydney, Australia における成果発表
成 果 の 概 要	令和 6 年度 7 月 7 日から 14 日の 8 日間開催された 15th International Congress on Mathematics Education in Sydney, Australia に参加するとともに、研究成果の発表を行なった。成果発表のタイトルは THE CURRENT STATUS AND CHALLENGES OF DESIGNING ACTIVITIES OF MATHEMATICS FOR HEARING-IMPAIRED STUDENTS USING ICT である。本研究は、情報技術の活用が可能になった新しい学習環境を踏まえて、聴覚障害のある中学生および高校生の数学理解を深めるために、ICT を活用した数学的活動の設計をいかにすべきかに焦点を当てている。ICT を活用した聴覚障害のある生徒のための数学的活動の設計についての理論的枠組みを提示するとともに、その枠組みに基づいて ICT がどのように活用しているか、その現状の把握、ならびに今後の ICT を活用した数学的活動のあり方として、いくつかの根拠をもとに聴覚障害のある生徒が ICT を通じて数学を自ら探求することの重要性を指摘した。本研究は科研費研究の成果の一部である。特に、本研究は、秋田大学教育文化学部の講師である加藤慎一氏、ならびに筑波大学附属聴覚特別支援学校教諭である小原氏、それぞれ本学修士、教職修士（専門職）修了生であり、彼らとの共同研究の成果の一部であり、すすめてきた経過と成果の報告を共同で行なった。世界各地からの数学教育研究者や教師の参加や発表があり、数学教育研究の新たな取り組みにも接することができ、また発表を通して数学教育研究者や教師との質疑応答を通して貴重な意見交流ができたことは有意義であった。今後の研究の充実と発展に生かしたい。具体的には、2025 年 7 月にローマで開催される世界ろう教育教育会議で有意義な研究の交流や研究の議論ができるよう準備する。